

SP コミュニティと 学認SP研究会

NII Open Forum・SP研究会

佐藤周行
トラスト・デジタルID基盤研究開発センター
NII
2025-06-17

今回のテーマ

- SP研究会は今回で3回目になります
- まだトピックはつきません
- 今回は、「デジタルクレデンシャル」「Social ID、National IDとの連携」がテーマです
 - 在学証明の発行
 - 企業がサービス提供基盤の中で発行するIDとの連携
 - デジタル認証アプリとの連携
- NIIが、2024年度後半に行ったデジタル庁の実証実験「マイナンバーカードを活用した在学証明・本人確認の 社会実装に向けた技術実証」が元ネタになります

学認の本来のミッション

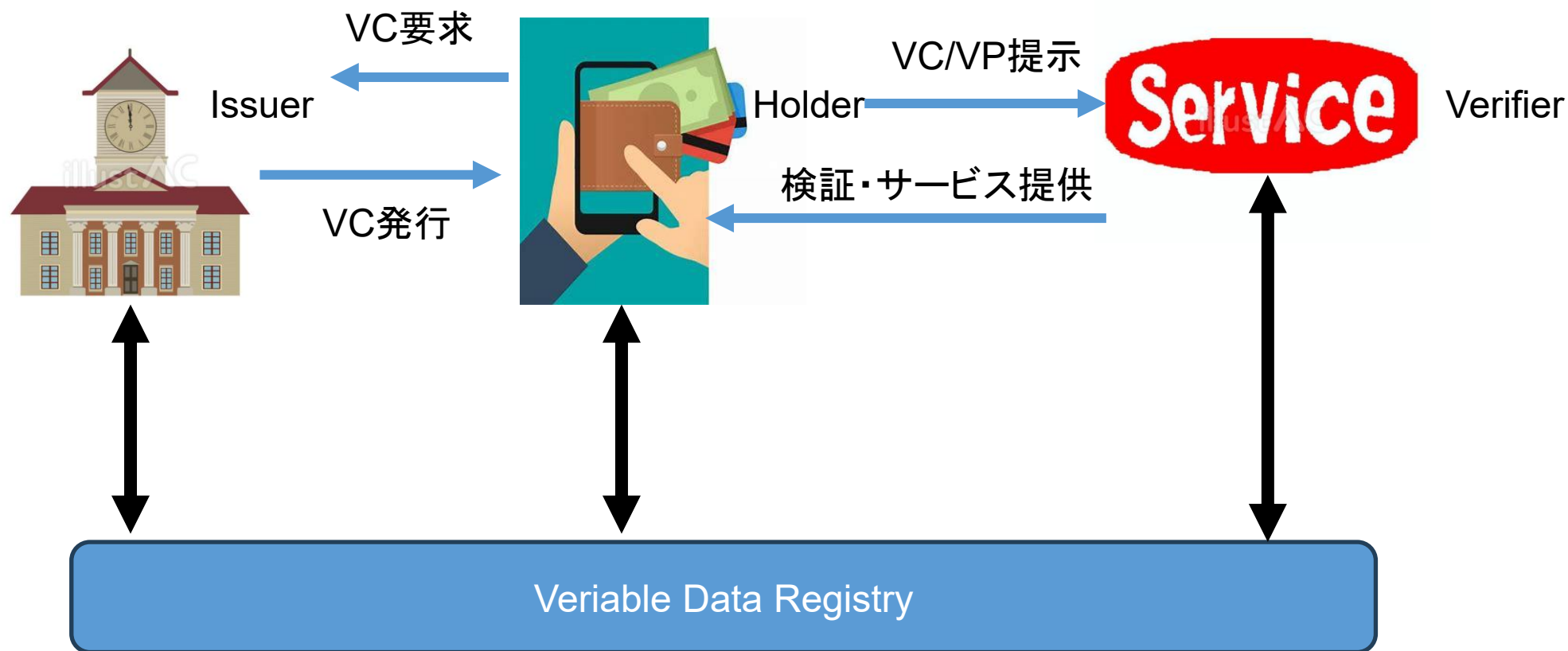
- 学認SP研究会へようこそ
 - 学認の主要な構成メンバーカテゴリーであるSP (Service Provider) にフォーカスした研究会です
 - SPどうしのコミュニティ、大学 (IdP) との交流の場を積極的に提供しようと思います
- **IdPとSPがフェデレーションを組むモデルは完全に定着しました**
- 従来学認のターゲットと（当初）思われてきたSPは「研究教育に資するもの」であったのは、事実です
 - 電子ジャーナルサイトはその典型的なものでした
 - 現在は、「学生・教職員の福利厚生に資するもの」として、多くのSPの参加をいただいています
 - ePTIDを採用して、プライバシー上の懸念を減らす努力もしてきました

新しいサービスの台頭

- (大学) 教育DXからのプレッシャーにより
 - 従来、デジタル化の対象とならなかったものに対してまでデジタル化が考えられるようになった
- 大学の場合、大きい比重を占めるのが「証明業務」
 - 卒業証明
 - 在籍証明
 - 成績証明
 - 在学証明
 - 通学証明
 - ...
 - 身分証としての学生証、職員証
- 当人がスマホを持つのが普通（「スマホ完結」という造語も）

IHVモデル

- フェデレーションモデルに加えてIHVモデルが「よさげなもの」として提唱された



学認のこれからのミッション（追加）

- Holder（自分）は、大学発行のIDの他に、自分自身のIDをもつ
 - +企業のサービス基盤で管理するIDやマイナンバーカード（サービス提供者が信頼するID体系であればよい）
- 大学がIssuerとして、「証明書（クレデンシャル）」を発行することの権威を保証する
- サービス提供者（Verifier）に、クレデンシャルの検証環境を提供する

⇒大学発行の証明書をもとにしたサービスが社会に広まることを期待

このセッション（SP研究会）では

- この枠組で、2024年度後半に実証実験を行ったJR西日本とデジタル庁にお話をいただきます
 - マイナンバーカードを使って本人確認ができる「デジタル認証アプリ」の紹介、教育機関等における導入事例について
 - デジタル庁 戦略組織グループ デジタル認証アプリ プロダクトマネージャー 青野 彰太郎 様
 - 在学資格証明を通じた民間サービスとの連携のミライ
 - デジタルソリューション本部 WESTER-X事業部 次長 内田 修二 様
 - 学術機関が発行する証明書のデジタル化の相互運用性確保に向けて
 - 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 みらい研究所 貞弘 崇行 様

CTCさんの発表について一言補足

- フェデレーションモデルでは、学認がIdPとSPの間での通信プロトコルと、交換されるデータ（アサーション）のプロファイルを定めました
 - 学認の中で、統制のとれたサービス要求・提供が可能に
- IHVモデルでも同じことが当てはまります
 - プロトコルとプロファイルの標準化に決定打はまだないので
 - 運用にどのようなガバナンスを効かせるかも実は問題だということがわかっています
 - 現在、いろいろな実装が提案されています
 - サービス提供に本質的なものは「相互運用性」です
 - 大学が個々の規格で在学証明や学生証をサービス側に提示しても、とまどうばかりです
 - NIIは、相互運用性確保のために、標準制定の場を提供する責任を痛感しています
 - NIIは、この領域においてCTCと共同研究を行っています
 - まずは、論点整理ということでCTCさんに発表をお願いします